

2020.7.25

紙つぶて

新型コロナウイルス感染症をめぐる緊急事態宣言下で、休業要請の対象となりながらも営業を続けたパチンコ店、そしてそこに通う人たちは大きな社会的話題となった。

いわゆる「パチンコ依存症」といわれるものは、ギャンブル障害として、精神医学的障害に位置付けられている。日本では、ギャンブル障害において、パチンコとスロットが諸外国に比べて突出している。それは合法化されているためであり、外国からわざわざパチンコをしに来る人もいる。

日本にカジノを、という話については、当然ギャンブル障害の問題が指摘されている。ギャンブル障害は、多くの精神医学的障害の中でも、周囲

合法化の前に

水島 広子

の生活すべてを振り回し悲劇をもたらす、被害の大きいものだ。そして日本はギャンブル障害についての治療先進国とはとても言えない。

政府は「週三回以内」などの依存症対策を作ると言いが、そんなことで収まらないからギャンブル障害という「病気」として扱う必要があるのだ。どんなに悪い結果を招くか、という理性が吹き飛んでしまうのがその症状の一つなのである。政府の対策は、ギャンブル障害が全く理解されていない。少なくとも現時点では絶対に導入すべきではない。「合法でない」という理由でかろうじてとどまっているものを、あえてハードルを外すのは新たな悲劇を生むだけだ。

(精神科医)